静岡市

洪水ひなん地図

[洪水・土砂災害ハザードマップ(足久保川)]

他のハザードマップについて

静岡市では、このハザードマップの他にも河川ごとの『洪水ひなん地図』、地域ごとの『浸水ひなん地図』を作成しています。このほかにも『静岡市防災マップ』や『津波避難マップ』を作成しています。

●洪水ひなん地図
「洪水ひなん地図」は、対象河川とその流域に発生する洪水による浸水被害想定を地図上に示したものです。

●浸水ひなん地図
「浸水ひなん地図」は、対象河川とその流域に発生する内水による浸水被害想定を地図上に示したものです。

静岡市防災情報マップ
静岡市防災情報マップは、地図や画像を利用して、災害想定に関する情報をインターネットにより、わかりやすく公開するサイトです。

静岡市 令和3年9月

ハザードマップについて

このハザードマップは足久保川が大雨によって増水し、堤防が決壊した場合に被害が想定される浸水箇所や、土砂災害のおそれのある箇所、避難場所等の位置を地図に示したものです。

大雨の時には、雨の降り方や浸水の状況などに注意し、危険を感じたら、早めに自主的な避難を心がけましょう。

このマップを参考に自宅や通学先・通勤先などにおいて想定される災害の状況を認識し、避難経路や避難場所等を確認してください。また、家庭や学校、事業所、地域における防災・減災活動にご活用ください。

自助・共助・公助について

「自助」「共助」「公助」という言葉をご存じですか。災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが連携し、災害への対応力を高めることが大切です。

自助
自分の身は自分で守る
自分の身を自分で守るための備えと行動を自助といいます。
・ハザードマップの確認　・非常時に必要となる物の準備　など

共助
自分たちの地域は自分たちで守る
近隣住民の方々と協力し、地域を守るための備えと行動を共助といいます。
・自主防災組織の結成　・地域の防災訓練への参加　など

公助
公的な機関の支援
市、警察、消防、県、国の行政機関、ライフライン機関等の公共機関、こうした機関の災害対策を公助といいます。各機関とも、災害発生からできるだけ早く応急対策活動にあたれるよう、備えています。

大切なのは自助、共助、公助の連携

災害の直後に自分を守るのは自助の力です。
自分ひとりでは対応できない状況になったとき、頼りになるのは共助です。
同時に、自分が可能ならば共助に参加する意識が必要です。
公助はその支援に限界がありますが、自助や共助では解決できない大きな問題に対応できます。
これらの連携が、被害を最小限に抑えるために重要となります。

市からの避難の呼びかけ

災害時には市からの避難の呼びかけに注意し、早めの行動を心がけてください。あなたの判断が家族の命を守る第一歩です。

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	・指定緊急避難場所等への立退き避難(水平避難)を基本とする避難行動をとる。 ・災害が発生するおそれが極めて高い状況等となっており、緊急に避難する。	避難開始 避難指示
警戒レベル3	高齢者等は立退き避難(水平避難)する。その他の者は立退き避難(水平避難)の準備をし、自発的に避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	避難に備え自らの避難行動を確認する。	洪水注意報、大雨注意報等
警戒レベル1	災害への心構えを高める。	早期注意情報

避難は原則、安全な場所へ避難する『立退き避難』です。ただし、道路の冠水や、降雨等の状況により、移動することが困難だと判断する場合には、近隣の安全な場所(頑丈で高い建物や標高の高い場所)や『在宅避難』により、安全を確保してください。

立退き避難

その場を立退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所等に避難すること(水平避難)

在宅避難

自宅に留まり安全を確保すること(屋内安全確保)

市からの避難の呼びかけに対し、市民が自らの状況を総合的に考慮し、避難行動を選択しましょう。

※必ずしも、高齢者等避難、避難指示の順番で発表されるとは限らないので、ご注意ください。
災害時には自らの判断で避難行動を実施する必要があります。これらの情報が発表されていなくても、身の危険を感じる場合は避難してください。

あなたがとるべき避難行動は？風水害避難行動判定フロー

静岡市が避難情報等を発表した際は、以下の風水害避難行動判定フローに従って、適切な避難行動をとりましょう。

ハザードマップで確認し、自宅がある場所に色が塗られていますか？
- いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそば等にお住まいの方は、必要に応じて避難行動をとってください。
- はい ↓

災害の危険があるので、原則として自宅の外に避難が必要です。
- 例外 → **在宅避難(屋内安全確保)** 以下の条件を満たす場合は、自宅に留まり安全を確保することも可能です。
  〈浸水害〉
  ・洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側で、浸水する深さよりも高いところにいる。
  〈土砂災害〉
  ・土砂災害の危険があっても、十分頑丈なマンション等の上層階に住んでいる。
- ↓

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人、地域の集会所等はありますか？
- はい → 安全な親戚や知人宅、地域の集会所等に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう。)
- いいえ → 静岡市が指定している風水害緊急避難場所に避難しましょう。

日頃からの備え

安全な場所にいる人は、避難場所等に行く必要はありません。事前に自宅が安全か確認しましょう。
安全な親戚・知人宅、地域の集会所等に避難する事も考え、相談しておきましょう。
避難する際には、早めの行動が不可欠です。避難行動をためらわないでください。

情報の入手先

災害発生の危険性が高まっている時または災害発生時には、市役所や消防、警察、メディアなどから正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。

緊急速報メール
緊急速報メールは、NTTドコモ、au、ソフトバンク等の携帯電話向け災害情報伝達手段で、静岡市内の携帯電話基地局エリアの範囲内に滞在する、緊急速報メール受信機能を持つ携帯電話に情報を配信するシステムです。(NTTドコモでは「エリアメール」と称します。)

静岡市 防災メール
事前に登録していただいたメールアドレスに、静岡市から地震や気象関連情報、大雨に伴う道路の通行止め情報等をお知らせするメール配信サービスです。
●静岡市防災メールへの登録方法
(https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_001526.html)
①下記の登録用アドレスに空メールを送る。
(右のQRコードも利用できます。)
②送信後、届いたメールにあるURLをクリックし、必要な項目を登録して完了。
siz-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com

静岡市

静岡市の緊急防災情報
https://www.city.shizuoka.lg.jp/021_000071.html

静岡市道路通行規制情報「しずみちinfo(インフォ)」
https://shizuokashi-road.appspot.com

国・県機関等

静岡県
緊急・危機管理情報／県内気象情報
https://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/

土木総合防災情報サイポスレーダー
http://sipos.pref.shizuoka.jp/

気象庁
防災情報
https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html

静岡地方気象台
https://www.jma-net.go.jp/shizuoka/

国土交通省
川の防災情報
https://www.river.go.jp/index

防災情報提供センター
https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/

中部電力停電情報(電気)
https://teiden.chuden.jp/p/sizuoka.html

お問い合わせ先
静岡市役所　危機管理総室
電話:054-221-1241

気象庁による気象情報

気象庁は、災害による被害を軽減するため、気象警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。

大雨注意報 洪水注意報
大雨、洪水によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨警報 洪水警報
大雨、洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

土砂災害警戒情報
大雨による土砂災害発生のおそれがあると予想される場合

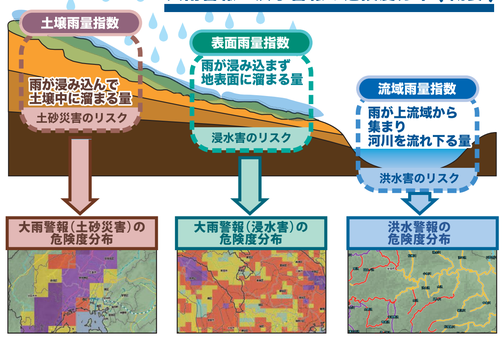
特別警報(大雨特別警報)
台風などにより、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合

気象庁の危険度分布(キキクル)

降った雨は地中に浸み込んだり地表面を流れるなどして川に集まります。大雨時には、雨は地中に浸み込んで土砂災害を発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、川に集まって増水することで洪水害を引き起こしたりします。

気象庁では、このような雨水の挙動を模式化し土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数として計算してそれぞれの災害リスクの高まりを土砂災害、浸水害、洪水害として「危険度分布(キキクル)」の提供を行っています。

大雨警報・洪水警報の危険度分布(概要)



気象庁の「キキクル」では雨による災害の危険度を地図上にリアルタイム表示できます。

https://www.jma.go.jp/bosai/risk
キキクル　検索

足久保川の避難判断(水位危険度レベル)

川の水位が上昇するに伴って、はん濫の発生する危険性が高まります。足久保川では、以下の各基準水位が設定されています。静岡市では、はん濫注意水位を超過し、更に水位の上昇が見込まれるときは高齢者等避難、はん濫危険水位に達したときは避難指示を発表します。

■基準水位観測所

河川名	観測所名	所在地(位置)	レベル1(水防団待機水位)	レベル2(はん濫注意水位)	レベル3(避難判断水位)	レベル4(はん濫危険水位)[避難指示]	レベル5(はん濫の発生)
足久保川	足久保	葵区 足久保口組	0.78m	1.22m	―	1.43m	―

洪水とはん濫について

洪水とは
洪水とは雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河川敷が水の下に隠れて見えなくなる、水位が堤防を越えるなど異常な増水をした時を「洪水」といいます。

はん濫とは
はん濫とは雨などにより住宅地や農地などに水が溢れることをいいます。川から水が溢れることを「外水はん濫」といいます。住宅地や農地に降った雨を排水することができず、そのまま溜まって溢れることを「内水はん濫」といいます。

土砂災害について

土砂災害の主なものに、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、土石流、地すべりがあります。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)
地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちるのが「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」です。
次のような前兆現象があります。
●がけから小石がぱらぱらと落ちてきた
●がけに割れ目ができた
●がけから水が吹きでてきた

土石流
山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるのが「土石流」です。
次のような前兆現象があります。
●山全体がうなっている(山鳴り)がする
●川の水が濁ったり、流木が混ざったりする
●雨が続いているのに川の水が減っている

地すべり
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動するのが「地すべり」です。
次のような前兆現象があります。
●地面がひび割れた、一部が陥没あるいは隆起した
●地下水などの水が濁った
●池や湖の量が急に変化した

避難する時の注意

避難するときは、隣近所で声を掛け合い、なるべく複数人で避難するようにしてください。危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩いて下さい。

安全な避難経路の確認

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

動きやすい格好、複数での避難

動きやすい服装で避難しましょう。なるべく家族や隣近所とともに集団で避難しましょう。スニーカー等を履き、長靴は控えましょう。

流れのある場所に近づかない

水の流れがゆっくりと歩く程の速さでも、水深がひざまで来ると歩けないので近づかないようにしましょう。

浸水している場所は注意が必要

浸水している場合は側溝などに転落するおそれがあり危険です。
やむを得ず避難する場合は、手をつないで長い棒などで確認しながら進みましょう。

静岡市で発生した過去の災害

七夕豪雨による被害

昭和49年(1974年)、日本海を北東へ進む台風8号に刺激された梅雨前線により、静岡市では7月7日午前9時から8日午前9時までの24時間で508mmという記録的な大雨となりました。

特に、静岡市内では7月8日の午前2時50分から3時50分までの1時間で85.5mmの雨が降りました。

この豪雨により、旧静岡・清水両市では各所で、がけ崩れ、道路の冠水、巴川をはじめとする中小河川のはん濫などが発生し、死者27人、床上浸水約12,000戸、床下浸水約14,000戸という大きな被害をもたらしました。

近年はこのように短時間に大量の雨が降ることが増えています。過去の災害を教訓に、災害を自分のことと考え、準備することが重要です。